

2017年2月16日

国立大学法人大阪大学
大塚製薬株式会社

大阪大学と大塚製薬 包括連携契約を締結 ー免疫学フロンティア研究センター(IFReC)の先端的研究についてー

国立大学法人大阪大学(大阪府吹田市、総長:西尾 章治郎、以下「大阪大学」と大塚製薬株式会社(東京都、代表取締役社長:樋口 達夫、以下「大塚製薬」)は、本日、大阪大学免疫学フロンティア研究センター(大阪府吹田市、拠点長:審良 静男、以下「IFReC」)と大塚製薬による先端的研究に関する包括連携契約を締結しましたのでお知らせします。

本契約により、大阪大学は、大塚製薬から資金の提供を受け、これを有効かつ効率的に活用し、IFReCの免疫学に関する先端的な基礎研究のさらなる発展および研究成果の社会への還元を目指します。また、大塚製薬は、IFReCの研究成果と大塚製薬の独創的な創薬研究を融合させ、世界の人々の健康に貢献する革新的な創薬につなげてまいります。

IFReCは、2007年度に文部科学省が開始した「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」に採択され、同年10月に大阪大学内に発足した免疫学に関する先端的研究を行う研究拠点です。免疫学研究の第一人者である審良 静男拠点長のもと、国内外から免疫学、生体イメージング、バイオインフォマティクス分野の世界トップレベルの主任研究者を中心に約170名の研究者が在籍し、革新的な免疫学研究を遂行しています。



<大阪大学 IFReC棟および融合型生命科学総合研究棟>

IFReCでは優れた研究設備と研究に集中できる国際的な環境を提供しており、高い水準の研究を展開することが可能となっています。IFReC の研究者は世界的に著名な学術誌へ論文を発表すると共に、権威ある国際賞を受賞するなど世界的に高く評価されています。

大塚製薬は、世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造するという企業理念のもと、人々の健康を身体全体で考え、「疾病の治療」から「日々の健康増進」までを目指すトータルヘルスケアカンパニーとして、独創的な発想や技術をもって創造的な挑戦を続けています。世界中の未解決の医療ニーズを満たすため、精神疾患、神経疾患、がんを最重点領域とし、循環器、感染症、眼科、皮膚科領域を中心とした治療薬の研究開発を行っています。

このたびの契約により、大阪大学はIFReCの基盤強化のための支援を大塚製薬から受けます。大塚製薬は、本件に先立って包括連携契約を締結している中外製薬株式会社とともにIFReCの研究内容の開示を受ける権利を有します。さらに共同研究の実施に向けた協議、ならびに大阪大学が出願した特許権についても同様の権利を有します。

【契約の概要】

期 間 : 2017年4月1日～2027年3月31日

目 的 :

本連携により、大阪大学は大塚製薬から資金の提供を受け、これを有効かつ効率的に活用しIFReCの免疫学に関する先端的な研究のさらなる発展および研究成果の社会への還元を目指し、大塚製薬は、IFReCの研究成果と大塚製薬の独創的な創薬研究を融合させ、世界の人々の健康に貢献する革新的な創薬を目指す。

【連携スキーム】

- ① IFReCは自由に基礎研究を行う
- ② IFReCが取り組む自主研究テーマについて、IFReCが大塚製薬へ研究成果の定期的開示(報告)を行う
- ③ 大塚製薬は、報告された研究テーマから共同研究に進む研究テーマを選択
- ④ IFReCの研究者が大塚製薬と共同研究を実施

以上

国立大学法人大阪大学

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja>

免疫学フロンティア研究センター(Immunology Frontier Research Center:IFReC)

<http://www.ifrec.osaka-u.ac.jp>

大塚製薬株式会社

<http://www.otsuka.co.jp>